



NiceForm ユーザーガイド (PowerForms)

日本語版

Rev-1312

© 2014 Euro Plus d.o.o. All rights reserved.

Euro Plus d.o.o.
Poslovna cona A 2
SI-4208 Šenčur, Slovenia
tel.: +386 4 280 50 00
fax: +386 4 233 11 48
www.nicelabel.com
info@nicelabel.com

Table of Contents

Table of Contents	2
このマニュアルについて	5
表記の意味	6
NiceForm へようこそ	7
基本と拡張インターフェイス	8
キーボードショートカット	9
ステータスバー	10
ツールバー	11
フォームのロック	12
データベースツールバーを使う	13
標準ツールバーを使う	14
文字ツールバーを使う	15
ツールボックスを使う	16
変換ツールバーを使う	17
変数ツールバーを使う	18
印刷枚数拡張オプション	19
変数値読み込み拡張オプション	20
変数値の保存拡張オプション	21
全てのラベルに適用	22
全ての選択レコードに適用	23
変数値読み込み	24
オブジェクトのフォーカスを移動	25
ドキュメント/プログラムを開く	26
ラベルを開く	27
他のフォームを開く	28
他の動作を実行	29
ラベルの印刷	30
繰り返し	31
シリアルポートから読み込み	32
シリアルポートに書き込み	33
コマンドファイルの実行	34
変数値の保存	35
変数の選択	36
カスタムコマンドの送信	37
プリンターの選択	38
変数値の設定	39
ログファイルの表示	40
ファイルとフォルダの参照	41

ライセンスの確認	42
Visual Basic スクリプト	43
ボタンの作成	44
チェックボックスの作成	45
コンボボックスの作成	46
データベースナビゲータの作成	47
データベースナビゲータの操作	48
データベース検索の作成	49
データベース検索の操作	50
エディットフィールドの作成	51
フレームの作成	52
リストボックスの作成	53
メモフィールドの作成	54
イメージの作成	55
プレビューの作成	56
ラジオグループの作成	57
テーブルの作成	58
テーブルの書式設定	59
フィールドを変数にリンクする	60
マスター - 詳細接続を使う	61
文字の作成	62
オブジェクトの位置あわせ	63
オブジェクトの移動とサイズ変更	64
オブジェクトの選択	65
コンテンツプロバイダ	66
データベースウィザード	66
データベースウィザード: 開始	67
データベースウィザード: データベースファイルの選択	67
データベースウィザード: フィールドの割り当て	68
データベースウィザード: フィールドの選択	69
データベースウィザード: フィールドの接続	70
データベースウィザード: オブジェクトの追加	70
データベースナビゲータ: ウィザードの完了	71
フィルターを使う	72
変数の編集	73
内部変数	73
変数の型	74
格納サーバーを使う	75
複数のオブジェクトサイズを揃える	76
ラベルから変数をインポートする	77
オブジェクトを変数にリンクする	78
データベースからラベルファイル名を取得して印刷する	79
複数の異なったラベルを印刷する	81
フォームの素早い作成とテスト	82
オブジェクトのフォーカスを変更する	83
実行モードで画面の位置を変更する	84

タブオーダーを変更する	85
データベースデータを使う	86
分散印刷を行う	87
モバイルデバイス用のフォームをデザインする	88
コマンドラインオプション	90
オンラインサポート	91

このマニュアルについて

ユーザーガイドには、以下の4つの章があります：

入門：この章では、ソフトウェアの概要について説明しています。

アプリケーションの設定：アプリケーションの設定と、使いやすくカスタマイズする方法を説明しています。

フォームのデザイン：フォームの作成方法を学びます。この章はソフトウェアの機能について理解するまで繰り返し参照してください。この章の内容を理解すると、ソフトウェアを効率的に利用できるようになるでしょう。

表記の意味

太字 は、メニュー項目、または OK のような**ボタン**を表します。

斜体 は、**オプション**項目、読み取り専用、または **フォルダ** のような**追加項目**を表します。

<と> で囲まれた文字は、<Enter> キーのような**キーボード入力**を表します。

[と] で囲まれた文字は、**変数名**です。

NiceForm へようこそ

NiceForm は、印刷を容易にするデータ入力フォームを作成するアプリケーションです。NiceForm を使うと、プログラミングの知識を必要とせずに独自の入力フォームを作成することができます。NiceForm は、32 ビットと 64 ビットの Microsoft Windows オペレーティングシステム上で動作します。

NiceForm の基本的な機能は、ラベル変数に対する値の入力を簡素化することです。まず最初に、NiceLabel で手入力、またはデータベース入力フィールドを持ったラベルをデザインします。続いて、データを入力するために必要なユーザーインターフェイスを NiceForm でデザインします。この方法を使うと、データの入力が簡素化され、誤ってデータを入力することが少なくなります。ユーザーが見るのはフォームだけです。NiceLabel とは、プログラミングインターフェイスを使用して通信します。

フォームのデザインは、簡単で柔軟です。フォームには固定 (固定文字、およびイメージ)、または可変 (入力、およびメモフィールドなど) オブジェクトと、動作を定義したボタンを配置することができます。ボタンには、印刷、フォームの変更などの複数のアクションを定義できます。

フォームには、デザインモードと実行モードの 2 つのモードがあります。デザインモードでフォームを設計し、実行モードでデータを入力して印刷します。

NiceForm は、既定値を補うことができます。この機能によって、素早く必要なデータだけを入力し、正しいラベルを印刷することができます。

フォームに入力したデータは、プログラミングインターフェイスを経由して NiceLabel に送られ、印刷します。

基本と拡張インターフェイス

ラベルソフトウェアは、2つのインターフェイスを持っています。既定値では、基本インターフェイスが選択されています。基本インターフェイスは、不慣れなユーザーにも使いやすいインターフェイスです。

拡張インターフェイスは、ソフトウェアの全ての機能を使用することができます。拡張インターフェイスを使用可能なダイアログボックスは、拡張インターフェイスに移行する **拡張** ボタンがあります。

例:

動作エディタ ダイアログボックスには、基本と拡張インターフェイスがあります。

キーボードショートカット

Delete	選択したオブジェクトを削除
Shift + Delete	切り取り
Ctrl + Insert	複写
Shift + Insert	貼り付け
Alt + Backspace	取り消し
Alt + Shift + Backspace	繰り返し
Ctrl + A	位置あわせ
Ctrl + X	切り取り
Ctrl + C	複写
Ctrl + V	貼り付け
Ctrl + Z	繰り返し
Ctrl + N	新規
Ctrl + O	開く
Ctrl + S	保存
Ctrl + F9	フォームの実行 (テスト実行。フォームは単独で起動できません)
Ctrl + G	グリッドに吸着
Ctrl + Tab	データベーステーブルの選択解除 (フォーカスの移動)
Alt + F4	終了
Ctrl + マウスでオブジェクトを移動	選択したオブジェクトを水平、または垂直に移動
Ctrl + カーソルキー	オブジェクトの詳細な位置決め。小さなステップで移動します
Shift + カーソルキー	オブジェクトの幅、高さの詳細な変更。小さなステップで変化します
マウスホイールの回転	フォームの上下スクロール
Shift + マウスホイールの回転	フォームの左右スクロール
オブジェクトを選択して Enter (または F2)	オブジェクトのプロパティダイアログボックスを開く

ステータスバー

ステータスバーは、ウインドウの下端にある情報領域です。アプリケーションからのメッセージなどを表示します。

次の情報が表示されています:

変更	最後の保存の後、ファイルの変更があった(変更が無い場合は空白)
現在位置	マウスイカーソルの現在位置。座標原点は、フォームの左上です
ラベルファイル名	フォームに添付されたラベルファイル名(存在しない場合は空白)

ツールバー

アプリケーションには、幾つかの使用可能なツールバーがあります。表示メニューコマンドで、これらのツールバーの表示/非表示を切り替えることができます。

ツールバーは、画面上を何処でも移動することができます。ウインドウの端にドッキングするか、任意の位置に置いておくことができます。

フォームのロック

ユーザーにフォームを変更させたくない場合があります。フォームをロックすると、全ての動作 (ボタンの動作、フォームの読み込み、フォームを閉じる、およびタイマーなど) が暗号化されます。

ノート:

フォームを暗号化しても、フォームファイルが読めなくなる訳ではありません。フォームファイルは可読文字で構成された XML テキストファイルです。この点は暗号化しても変わりません。

ユーザーにフォームを変更させないもう一つの方法は、フォームを直接ダブルクリックして実行することです。この場合は、フォームは直接実行モードで動作します。実行モードでは、フォームを変更することができません。しかし、フォームをアプリケーションから開くことで、デザインを変更することはできます。

フォームをロックするには、以下の手順を実行します:

1. フォームを開きます
2. ファイルメニューのフォームのプロパティメニューコマンドを実行します
3. 拡張オプションタブを開きます
4. フォームのロックオプションを選択します
5. パスワード保護オプションを選択し、パスワード設定 ボタンを押します
6. パスワードを入力して、OK ボタンを押します
7. 再度 OK ボタンを押して、ダイアログボックスを閉じます
8. ファイルメニューの保存メニューコマンドを実行して、フォームを保存してください
9. フォームを閉じて、作業を終了します

データベースツールバーを使う

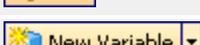


ツールバーの最初のフィールドは、接続中のデータベースを表示します。このデータベースの内容を参照することができます。

	接続中のデータベースを表示します。また、ラベルで利用可能なデータベースの一覧リストも表示します
	データベースウィザード を使用して、新しいデータベース接続を作成します。接続が完了すると、データベースフィールドをラベル変数として使用できます
	新しいデータベース接続を手動で作成します
	選択したデータベース接続のプロパティを編集します。データベースドライバの変更、選択したフィールドの変更、および印刷枚数フィールドの変更などを行います
	選択したデータベース接続を削除します ノート： データベース接続を削除するには、データベースフィールドが使用（例えば変数オブジェクト、および関数での参照など）されていない状態であればいけません。データベースフィールドの使用状態は、Label Inspector で表示することができます。
	選択したデータベーステーブルをデータベース管理アプリケーションで開きます

標準ツールバーを使う

標準ツールバーのアイコンは、以下の動作を実行します:

	フォームを新規作成
	ウィザードを使ってフォームを新規作成
	既存のフォームを開く
	フォームの保存
	選択したオブジェクトをクリップボードに切り取り
	選択したオブジェクトをクリップボードに複写
	オブジェクトをクリップボードから貼り付け
	直前の操作を取り消す
	直前の操作を繰り返す
	フォームの実行。フォームは、新しいウィンドウで開きます
	変数の操作。右端の矢印をクリックすると、実行可能なコマンドが表示されます
	データベースの操作。右端の矢印をクリックすると、実行可能なコマンドが表示されます

文字ツールバーを使う

文字ツールバーを使うと、文字オブジェクトの書式設定を素早く行うことができます。



操作方法:

1. 設定を変更する文字オブジェクトをクリックして選択
2. 文字ツールバーの適用したい書式ボタンをクリック
3. フォントを変更するには、フォントリストからフォントを選択
4. サイズを変更するには、サイズリストからサイズを選択するか、サイズを直接入力

ノート:

文字オブジェクトのハンドル(周囲の小さな四角)をドラッグして、直接サイズを変更することもできます。

5. 文字を強調、斜体、または下線を引くには、対応するボタンを押してください



このボタンを押すと、選択した文字列を強調します



このボタンを押すと、選択した文字列を斜体にします



このボタンを押すと、選択した文字列に下線を引きます

ツールボックスを使う

ツールボックスを使うには、以下の手順を実行します:

1. 使用したいオブジェクトをツールボックスのアイコンから**選択**します
2. マウスカーソルをフォーム上で動かします。カーソル形状の**変換**に注目してください
3. **オブジェクト**を配置したい場所で、**マウスをクリック**してください

幾つかのオブジェクトは、アイコンの横にショートカット (下向きの矢印を押して**選択**) を持っています。ショートカットを使うと、素早い**固定オブジェクト**の作成と**値の設定**、新しい**変数**の作成と**オブジェクトへの接続**、および既存の**変数のオブジェクトへの接続**を行うことができます。

変換ツールバーを使う



変換ツールバーを使うと、オブジェクトの色、整列、および配置を変更することができます。

ノート：
オブジェクトの配置は、最初のオブジェクトを基準に行われます。

	フォーム上の選択したオブジェクトの色を変更
	最初のオブジェクトを基準に整列、またはフォームを基準に整列 小さな矢印ボタンをクリックすると、追加オプションが表示されます
	選択したオブジェクトを前面に移動
	選択したオブジェクトを背面に移動

ノート：
ツールバーをウインドウの右、または左にドッキングすると、全ての位置あわせアイコンが表示されます。

	左あわせ
	垂直中央あわせ
	右あわせ
	上あわせ
	水平中央あわせ
	下あわせ
	選択したオブジェクトを水平均等配置
	選択したオブジェクトを垂直均等配置

ノート：
<CTRL> キーを押しながら位置あわせボタンを押すと、オブジェクトはフォームを基準に（最初に選択したオブジェクトを基準ではなく）位置あわせされます。

変数ツールバーを使う



変数ツールバーのリストボックスは、フォーム上で使用可能な変数を含んでいます。フォーム上の変数オブジェクトを選択すると、リストボックスはリンクした変数を表示します。変数オブジェクトにリンクしていない変数を選択し、フォーム上をマウスでクリックすると、文字変数オブジェクトが作成されます。

	新しい変数を手動で作成
	選択したオブジェクトのプロパティを修正 ノート: 変数オブジェクトを選択すると、リストボックスにはリンクした変数名が表示されます。
	選択した変数を削除 ノート: 変数を削除するには、フォーム上から変数オブジェクトを削除しておかなければいけません。
	変数ダイアログボックスを開く
	ラベルファイルから変数を取得

フォーム上のオブジェクトに変数を結びつける幾つかの方法があります。

- 既にフォーム上にオブジェクトが存在するときは、最初にオブジェクトを選択します。続いてリストから変数を選択してください。
- 未だフォーム上にオブジェクトが存在しないなら、最初に変数リストから変数を選択します。続いてオブジェクトを配置したい位置でクリックしてください。文字変数オブジェクトが既定で作成されます。
- 他の変数オブジェクト (規定で作成される文字変数オブジェクト以外) を作成したいときは、最初にリストから変数を選択します。次にツールボックスの作成したいオブジェクトアイコンを押す、最後にオブジェクトを配置したい位置でマウスをクリックします。
- ツールボックスのオブジェクトアイコンの横にある小さな矢印をクリックして、既存の変数を使用メニューコマンドを実行します。次に変数を選択、最後にオブジェクトを配置したい位置でマウスをクリックします。

変数ツールバーのリストボックスは、常に変数オブジェクトに結びついた変数名を表示しています。変数オブジェクトを選択していないか、複数の変数オブジェクトを選択しているときは、このボックスは空です。

印刷枚数拡張オプション

空送り枚数: 指定した枚数だけ空送り印刷します。シートラベルの印刷済み領域を飛ばすために使用します。

ノート:

空送りはラベル単位です。排紙ではありません。この機能は、通常の Windows プリンターで有効です。ラベルプリンターでは、通常意味を持ちません。

ラベルのコピー数: ラベルのコピー枚数です。

ラベルセットの数: ラベルセットの作成枚数 (印刷命令の反復回数) です。

例:

ラベルのコピー数が 5、ラベルセットの数が 3 の場合は、5 枚のラベル印刷が 3 回繰り返されます。結果として、3 組 15 枚のラベルが印刷されます。

変数値読み込み拡張オプション

このダイアログボックスでは、テキストファイルからの変数値読み込みを設定します。

変数: テキストファイルから値を読み込む変数を選択します。

- **全ての変数:** 既定値です。全ての変数値を読み込みます。
- **選択変数:** 選択した変数値を読み込みます。選択 ボタンを押して、読み込む変数を選択します。

その他: テキストファイルのデリミタ、および引用文字などを設定します。

変数値の保存拡張オプション

このダイアログボックスでは、テキストファイルへの変数値の保存を設定します。

変数: テキストファイルへ値を書き込む変数を選択します。

- **全ての変数:** 既定値です。全ての変数値を書き込みます。
- **選択変数:** 選択した変数値を核込みます。選択 ボタンを押して、書き込む変数を選択します。

ファイルが存在するとき: ファイルが存在するときの動作を指定します。

その他: テキストファイルのデリミタ、および引用文字などを設定します。

全てのラベルに適用

この動作は、全てのラベルに対して適用する条件式を設定します。

条件式を評価し、結果が真であれば固定値 (ラベルファイルのリスト) のラベルを順に、または変数値 (変数値で指定したラベルファイル) のラベルを印刷します。

固定値: 印刷するラベルのリストを定義します。

- **追加:** リストに追加するラベルを選択します。
- **(追加ボタン横の下矢印):** ラベルファイル名を含む変数を追加します。変数値は、ラベルファイルへの絶対パスでなければいけません。
- **削除:** 選択した要素をリストから削除します。
- **(上下の矢印ボタン):** リスト内での要素の順序を変更します。リストの上から順に印刷します。

変数値: 印刷するラベルファイル名を含む変数を選択します。変数値は、ラベルファイルへの絶対パスでなければいけません。

条件: 印刷条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけラベルを印刷します。

全ての選択レコードに適用

この動作は、全ての選択レコードに対して適用する条件式を設定します。

条件式を評価し、結果が真であればレコードの値を持ったラベルを印刷します。

テーブル: 印刷に使用するテーブルです。

ノート:

データベーステーブルは、フォーム上で参照可能でなければいけません。

条件: 印刷条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけラベルを印刷します。

変数値読み込み

この動作は、テキストファイルから値を読み込んで変数に格納します。

ファイル名: テキストファイルのパス名です。文字定数、または変数値で指定することができます。

拡張オプション: このボタンを押して変数を選択すると、テキストファイルの構造を設定する拡張オプションを設定することができます。

条件: 読み込み条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけラベルを値を読み込みます。

オブジェクトのフォーカスを移動

この動作は、ラベル上の他のオブジェクトにフォーカスを移動します。フォーカスを持つオブジェクトは「アクティブ」です。アクティブなオブジェクトは、マウスで選択することなく入力を受け付けます。通常フォーカスは、タブ (Tab) キーで移動し、タブオーダー (移動順序) はデザイン時に決まっています。

明示的にタブオーダーを変更しない限り、タブオーダーはオブジェクトの作成順に設定されます。

ノート: 移動順序を表示するには、デザイン -> タブオーダー メニューコマンドを実行します。

このアクションを使用すると、明示的にフォーカスを移動することができます。

最初のタブオーダーにフォーカスを移動: 最初のタブオーダーにフォーカスを移動します。起動直後の状態になります。

選択オブジェクトにフォーカスを移動: 選択したオブジェクトにフォーカスを移動します。

ノート: コンボボックスでオブジェクト名を選択することができます。全てのオブジェクトは、一意識別子を持っており、変数プロパティの拡張タブで確認することができます。

条件: フォーカスの移動を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけフォーカスを移動します。

ドキュメント / プログラムを開く

この動作は、指定されたドキュメント、またはプログラムを開きます。

ファイル名: ドキュメント、またはプログラムへの絶対パス名です。

ノート:

プログラムを開くときは、内部変数をコマンドラインで渡すことができます。変数は [] 括弧で括って渡します。

例: C:¥ Program Files ¥ my_program.exe [Variable]

条件: 開く条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけドキュメント、またはプログラムを開きます。

ラベルを開く

この動作は、印刷に使用するラベルを開きます。

ラベル: ラベルファイル名への絶対パスです。文字定数、または変数値で指定することができます。

条件: 開く条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけラベルを開きます。

ノート:

この動作は、他の動作と入れ子にすることができます。印刷やラベルオブジェクトの操作は、予めラベルを開いておかなければいけません。これらの動作に先立って、ラベルを開くようにします。

他のフォームを開く

この動作は、現在のフォームを閉じて他のフォームを開きます。

ファイル名: フォーム名です。文字定数、または変数値で指定することができます。

直前のフォームに戻る: 現在のフォームを開いたフォームを再度開きます。フォームを開いた履歴は自動的に記憶しているので、直前のフォームに戻ることができます。

ノート:

直前のフォームに戻る動作は、ブラウザの戻るボタンを押すことに似ています。

条件: 開く条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけフォームを開きます。この動作は、拡張モードでのみ表示されます。

他の動作を実行

条件: 実行条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ他の動作を実行します。

ラベルの印刷

この動作は、印刷枚数を指定し、ラベルを印刷します。

ラベルの枚数: ラベルの印刷枚数です。

- **固定:** ラベルの印刷枚数を定数値で指定します。
- **無制限:** 全て、または最大値を意味する予約値です。データベースに接続している場合は、返却レコードの総数に一致します (検索した全てのレコードを印刷)。そうでない場合は、プリンターの最大印刷可能枚数です。

ノート:

脱出条件をよく検討し、無限ループにならないように注意してください。

- **ラベル変数で指定:** 選択したラベル変数で指定した枚数です。多くの場合は、データベース変数値を使います。データベースフィールドの返却値だけ印刷します。
- **フォーム変数で指定:** 選択したフォーム変数で指定した枚数です。

拡張オプション: このボタンを押すと、拡張オプションの設定画面を開きます。

条件: 印刷条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけラベルを印刷します。この動作は、拡張モードでのみ表示されます。

繰り返し

この動作は、指定された回数だけ条件を評価して実行します。一般のプログラミング言語における for 文と if 文を組み合わせたような動作をします。評価回数は | 終了値 - 初期値 | 回ですが、動作を実行するのは条件が成立した場合だけです。

開始値: ループの開始値です。

終了値: ループの終了値です。

ノート:

開始値が終了値より小さいときは、減算ループになります。

開始値と終了値は、共に定数、または変数にすることができます。変数にした場合、現在の値は変数値に保存されます。

条件: 動作の実行を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ動作を実行します。

シリアルポートから読み込み

この動作は、シリアルポートからデータを読みます。

受信したデータは、変数に格納されます。このデータをラベルやフォーム上で直接扱うことも、Visual Basic スクリプトなどの関数で処理して扱うこともできます。

シリアルポート設定: シリアルポートの設定を行います。この設定は、接続する機器と正確に一致しなければいけません。正しい値は、接続する機器のマニュアルを参照してください。

初期化データ: 受信に先立って、シリアルポートに送信する文字列です。矢印ボタンをクリックすると、制御文字などの非可読文字を入力することができます。

初期化データを送信: このオプションをチェックすると、初期化データの送信機能を有効にします。この設定は任意です。

受信までの待機時間: データを受信するまでの待機時間です。ミリ秒単位で入力します。この設定は任意です。

フィルター: 受信したデータにフィルターを適用し、データの一部だけを取り出します。この設定は任意です。

開始/終了文字を使う: データの取り出しに使う開始と終了文字を指定します。

例: 開始文字が###、終了文字が\$\$\$ で、q###12345\$\$\$1を受信したときは、12345 が取り出されます。

開始/終了位置を使う: データの取り出しを行う開始と終了位置を指定します。

例: 開始位置が5、終了位置が9 で、q###12345\$\$\$1を受信したときは、12345 が取り出されます。

条件: 読み取る条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ読み取ります。

シリアルポートに書き込み

この動作は、シリアルポートにデータを書き込みます。

書き込むデータは、固定値か変数値にすることができます。このデータは、ラベルやフォーム上の変数で与える事も、Visual Basic スクリプトなどの関数で作成することもできます。

シリアルポート設定: シリアルポートの設定を行います。この設定は、接続する機器と正確に一致しなければいけません。正しい値は、接続する機器のマニュアルを参照してください。

データ: シリアルポートに送信する文字列です。データは、固定値にすることも変数値にすることもできます。矢印ボタンをクリックすると、制御文字などの非可読文字を入力することができます。

条件: 書き込む条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ書き込みます。

コマンドファイルの実行

この動作は、コマンドファイルを実行します。以下の形式のコマンドファイルを実行することができます:

- JOB ファイル
- XML ファイル
- CSV (カンマ区切り) ファイル

コマンドファイルは、印刷エンジンに対する指示を記述したテキストファイルで、一般にバッチやスクリプトファイルと呼ばれるものと同じです。多くの場合は、ラベルを開き、変数に対する値の設定、続いて印刷を行う内容を記述します。

詳細については、ラベルデザイナーのインテグレーションとソフトウェアの制御、およびソフトウェアの自動制御の章などを参照してください。

ファイル名: コマンドファイル名です。文字定数、または変数値で指定することができます。

条件: 実行条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ実行します。

変数値の保存

この動作は、フォーム変数のデータをテキストファイルに保存します。

ファイル名: 変数値を保存するファイル名です。文字定数、または変数値で指定することができます。

拡張オプション: このボタンを押して変数を選択すると、テキストファイルの構造を設定する拡張オプションを設定することができます。

条件: 保存条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ変数値を保存します。

変数の選択

この動作は、保存、読み込み、およびフォームファイル名の指定に使用する変数を指定します。
に上下ボタンを押して、変数を選択してください。

カスタムコマンドの送信

この動作は、定義リストのコマンドスクリプトを印刷エンジンに送信して実行させます。

コマンド: コマンドスクリプト文字列を入力します。

編集: **編集** ボタンをクリックすると、Expression Editor を起動してコマンドスクリプトを編集します。コマンドの内部で、変数を参照することができます。変数を指定するときは、変数名を [] で括ります。

例:

印刷枚数を Quantity で定義しているとき、PRINT コマンドに引き渡すには PRINT [Quantity] と入力します。

条件: 送信条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけコマンドスクリプトを送信します。

ノート:

コマンドについてのより詳しい情報は、オンラインヘルプ、またはマニュアルを参照してください。

プリンターの選択

この動作は、ラベルの印刷に使用するプリンターを選択します。ラベル設定で指定されているプリンターを上書きします。

ノート:

この動作は、一つのラベルを複数のプリンターに出力するときに特に役に立ちます。

プリンター: 使用するプリンター名です。文字定数、または変数値で指定することができます。

条件: 選択条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけプリンターを選択します。

変数値の設定

この動作は、選択した変数に値を設定します。

条件: 設定条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ変数値を設定します。

ログファイルの表示

この動作は、現在のワークステーションの印刷ログファイルを開きます。ログファイルの表示は、印刷ログを参照するだけでなく、印刷済みのデータを再印刷する場合にも使用します。

再印刷するには:

1. 印刷枚数を設定します
2. 再印刷に使用するプリンターを選択します
3. ログファイルから、再印刷するデータを選択します

ノート:

沢山のログデータが表示されているときは、検索機能を使ってデータを絞り込むことができます。

ファイルとフォルダの参照

この動作は、ファイルを開くダイアログボックスを表示し、ファイルとフォルダを参照可能にします。定義済みのフィルターやユーザー定義フィルターを使って、ファイルやフォルダの参照を容易にします。

ノート:

ファイルかフォルダが選択されると、結果は名前フィールドで指定した変数に格納されます。変数についてのより詳しい情報は、マニュアルを参照してください。

フィルター: 表示するファイルを絞り込むフィルダーです。定義済みのフィルターを選択することも、独自のフィルターを定義することもできます。

初期フォルダ: 最初に開く既定のフォルダです。

条件: 参照条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけファイルとフォルダを参照します。

ライセンスの確認

この動作は、ライセンス確認を行います。

- ソリューション ID を指定すると、ソリューション ID とライセンスキー番号が正確に一致しない環境では動作しません。
- ソリューション ID に 0 を指定すると、ソフトウェアの実行ライセンスを取得している全ての環境で動作します。

Condition: This is a Visual Basic Script boolean expression. Only two results are possible (True and False). Use this option to enable current action only when some term is met. The action will be started only if condition returns True as the result of the expression.

条件: 確認条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけライセンス確認をおこないます。

Visual Basic スクリプト

この動作は、Visual Basic スクリプトを実行します。高度なデータ処理に適しています。

標準的な Visual Basic スクリプトの全ての構文を実行することができます。変数値、およびシリアルポートの読み書きも行うことができます。

Visual Basic スクリプト: スクリプトを記述します。

スクリプトの作成: このボタンをクリックすると、Expression エディタが起動して、スクリプトの作成と編集を行うことができます。

スクリプトのチェック: このボタンをクリックすると、スクリプトの構文チェックをおこないます。貴方に代わってデバッグする訳ではありません！論理エラーを解決できるのは貴方だけです。

条件: 実行条件を制御する評価器で、Visual Basic スクリプト式です。返却値はブーリアン (True、または False) です。式の評価結果が真の場合だけ Visual Basic スクリプトを実行します。

ボタンの作成

ボタンを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

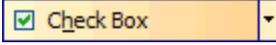
ノート:
オブジェクトメニューのボタンメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のボタンを配置したい位置でマウスをクリックします
3. ボタンをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 動作 タブを選択してください
5. 編集 ボタンを押して、動作エディタを開きます
6. ボタンを押したときの動作を追加します。
ウインドウ左側の動作一覧から、希望する動作を選択して右側のウインドウヘド
ロップします。
必要であれば、動作のプロパティを設定してください
7. 必要な動作の追加が完了したら、OK ボタンを押して動作エディタを閉じます
8. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

チェックボックスの作成

チェックボックスを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのチェックボックスメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のチェックボックスを配置したい位置でマウスをクリックします
3. チェックボックスをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 動作 タブを選択してください
5. チェック状態 (有効/無効) を格納する変数をリストから選択します

ノート:
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

7. 値 タブを選択してください
8. チェックボックスに付ける文字列を入力します
9. チェックボックスの既定の状態 (有効/無効) を選択します
10. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

コンボボックスの作成

コンボボックスを作成するには、以下の手順を実行します：

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート：
オブジェクトメニューのコンボボックスメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のコンボボックスを配置したい位置でマウスをクリックします
3. コンボボックスをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 内容 タブを選択します
5. プルダウンリストから変数値を選択します
6. 変数リストボックスから変数を選択します。コンボボックスで入力した値は、この変数に格納されます

ノート：
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

7. 値 タブを選択してください
8. 編集 ボタンを押してください。
内容の編集 ダイアログボックスが開きます
9. コンボボックスに表示する文字列を入力します。複数行入力することができ、各行が変数値の候補になります
10. 上下の矢印ボタンを押すと、入力した各行を移動することができます

ノート： キーボードの Alt + Up、および Alt + Down キーを押しても、入力した各行を移動することができます。

12. OK ボタンを押して、内容の編集 ダイアログボックスを閉じます
13. 再度 OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート：
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

データベースナビゲータの作成

データベースナビゲータを作成するには、以下の手順を実行します：

1. ツールボックスの  Database Navigator アイコンをクリックします

ノート：
オブジェクトメニューのデータベースナビゲータメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のデータベースナビゲータを配置したい位置でマウスをクリックします
3. データベースナビゲータをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. データベースタブを選択します
5. リストからデータベースを選択します

ノート：
リストに使用したいデータベースが見つからないときは、編集 ボタンを押してデータベースリンクを作成してください。

6. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

データベースナビゲータの操作

データベースナビゲータは、データベースレコードを移動する場合に使用します。

データベースに接続した全てのフィールドは、データベースナビゲータによる操作で値が変化します。

ノート:

データベースナビゲータは、テーブルオブジェクトの一部です。フォーム上でテーブルオブジェクトを使用しないなら、データベースナビゲータは使えません。

データベースナビゲータには、以下のボタンがあります:

	先頭レコードに移動
	前のレコードに移動
	次のレコードに移動
	最後のレコードに移動
	データの再読み込み

データベース検索の作成

データベース検索を使用するには、以下の手順を実行します:

1. ルールボックスの  Database Search アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのデータベース検索メニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のデータベース検索を配置したい位置でマウスをクリックします
3. データベース検索をダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. データベースタブを選択します
5. リストからデータベースを選択します

ノート:
リストに使用したいデータベースが見つからないときは、編集 ボタンを押してデータベースリンクを作成してください。

6. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

データベースに正しく接続し、データベースを検索すると、検索結果がエディットボックスに表示されます。

データベース検索の操作

データベース検索は、データベースレコードの検索を行います。レコードの値が取得されるのは、検索条件に一致する場合だけです。

ノート:

データベース検索は、テーブルオブジェクトの一部です。フォーム上でテーブルオブジェクトを使用しないなら、データベース検索は使えません。

データベース検索には、以下のボタンがあります:

<input type="text" value="Mary"/>	データベースフィールドの検索キーを入力するエディットボックスです
	このボタンをクリックすると、検索を開始します
<input type="text" value=""/> 	検索対象となるデータベースフィールドです
	フィルター機能を有効にします。検索条件を指定して、結果を絞り込むことができます

エディットフィールドの作成

エディットフィールドを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのエディットフィールドメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上 のエディットフィールドを配置したい位置 でマウスをクリックします
3. コンボボックスをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 内容 タブを選択します
5. プルダウンリストから 変数値 を選択します
6. 変数 リストボックスから変数を選択します。エディットフィールドで入力した値は、この変数に格納されます

ノート:
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

7. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

フレームの作成

フレームオブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  Frame アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのフレームオブジェクトメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のフレームオブジェクトを配置したい位置でマウスをクリックします
3. フレームオブジェクトが既定値のサイズで作られます。再度フレームオブジェクトをクリックし、マウスの左ボタンを押したままドラッグすると、フレームのサイズを変更できます

ノート:
フレームオブジェクトのプロパティを変更するには、フレームオブジェクトをダブルクリックします。フレームオブジェクトの配置をキャンセルするには、ESC ボタンを押します。

リストボックスの作成

リストボックスを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  List Box アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのリストボックスメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のリストボックスを配置したい位置でマウスをクリックします
3. リストボックスをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 内容 タブを選択します
5. プルダウンリストから変数値を選択します
6. 変数リストボックスから変数を選択します。リストボックスで入力した値は、この変数に格納されます

ノート:
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

7. 値 タブを選択します
8. 編集 ボタンを押してください。
内容の編集 ダイアログボックスが開きます
9. リストボックスに表示する文字列を入力します。複数行入力することができ、各行が変数値の候補になります
10. 上下の矢印ボタンを押すと、入力した各行を移動することができます

ノート: キーボードの Alt + Up、および Alt + Down キーを押しても、入力した各行を移動することができます。

12. OK ボタンを押して、内容の編集 ダイアログボックスを閉じます
13. 再度 OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

メモフィールドの作成

メモフィールドを作成するには、以下の手順を実行します：

1. ツールボックスの  Memo Field アイコンをクリックします

ノート：
オブジェクトメニューのメモフィールドメニューコマンドを実行しても同様です。

1. フォーム上のメモフィールドを配置したい位置でマウスをクリックしますC
2. メモフィールドをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
3. 内容 タブを選択します
4. プルダウンリストから変数値を選択します
5. 変数リストボックスから変数を選択します。メモフィールドで入力した値は、この変数に格納されます

ノート：
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

6. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート：
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

イメージの作成

イメージオブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのイメージメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のイメージオブジェクトを配置したい位置でマウスをクリックします
ファイルを開くダイアログボックスが開きます
3. 使用したいイメージファイルを選択してください
4. 開くボタンを押して、イメージファイルを取り込みます

ノート:
イメージオブジェクトのプロパティを変更するには、マウスでダブルクリックします。フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

プレビューの作成

プレビューオブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  Preview アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのプレビューメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のプレビューオブジェクトを配置したい位置でマウスをクリックします。
ラベルファイルの選択 ダイアログボックスが開きます
3. プレビューを表示するラベルを選択してください
4. 開くボタンを押して、ラベルファイルを取り込みます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

ラジオグループの作成

ラジオグループオブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのラジオグループコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のラジオグループを配置したい位置でマウスをクリックします
3. ラジオグループをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. 内容 タブを選択します
5. プルダウンリストから変数値を選択します
6. 変数リストボックスから変数を選択します。コンボボックスで入力した値は、この変数に格納されます

ノート:
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) するか、新規 ボタンを押してフォーム変数を新規作成します。

7. 値 タブを選択してください
8. 編集 ボタンを押してください。
内容の編集 ダイアログボックスが開きます
9. ラジオグループに表示する文字列を入力します。複数行入力することができ、各行が変数値の候補になります
10. OK ボタンを押して、内容の編集 ダイアログボックスを閉じます
11. 再度 OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

テーブルの作成

テーブルを作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  Table アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューのテーブルメニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上のテーブルを配置したい位置でマウスをクリックします
3. テーブルをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
4. データベースタブを開きます
5. リストからデータベースを選択します。
リストに使用したいデータベースが見つからないときは、編集 ボタンを押してデータベースリンクを作成してください
6. カラムタブを選択します
7. 使用したいデータベースフィールドをラベル変数か、フォーム変数に割り当てます

ノート:
リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) してください。

8. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

ノート:
フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

テーブルの書式設定

テーブルの書式を設定するには、以下の手順を実行します:

1. テーブルオブジェクトをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
2. カラムタブを選択します
3. 書式を設定したいフィールドを選択します
4. **表示書式** ボタンを押してください
5. **タイトルとデータの書式を設定** します。
タイトルは、データベースフィールドの見出しです。データは、フィールドデータの表示方法を指定します
6. **OK** ボタンを押して、書式ダイアログボックスを閉じます
7. **OK** ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

フィールドを変数にリンクする

フィールドを変数にリンクするには、以下の手順を実行します:

1. テーブルオブジェクトをダブルクリックしてください。
プロパティダイアログボックスが開きます
2. データベースタブを選択します
3. リストから正しいデータベース接続を選択します

ノート:

リストに使用したいデータベースが見つからないときは、編集 ボタンを押してデータベースリンクを作成してください。

4. カラム タブを開きます
5. データベースフィールド横の <未接続> を選び、正しい変数にリンクします

ノート:

リストに変数が存在しないときは、ラベル変数をインポート (デザイン -> 変数の取得 メニューコマンド) してください。

6. 5 のステップを繰り返して、必要な変数を全て結び付けます
7. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます

マスター - 詳細接続を使う

マスター - 詳細接続は、複数のデータベースを結合 (組み合わせ) して表要素を作り出す機能で、SQL 文の JOIN 命令の実行に相当します。最初のテーブルには、検索キーとなる一意の情報を管理します。2 つめのテーブルには、検索キーとその他のデータを入力します。検索結果が取り出されるのは、検索キーが一致したレコードだけです。

例:

ここでは、典型的なマスター - 詳細接続の使用法を説明します。フォームでは、顧客情報となる CUSTOMERS (顧客番号)、ORDERS (受注番号)、および ITEMS (受注商品) の3つのテーブルを表示することになります。

CUSTOMERS	顧客番号テーブル ORDER_ID というフィールドを持ちます
ORDERS	受注番号テーブル CUSTOMERS テーブルの子テーブルで、CUSTOMERS テーブルにリンクするための ORDER_ID フィールドを持ちます
ITEMS	受注商品テーブル ORDERS テーブルの子テーブルで、ORDERS テーブルにリンクするための ORDER_ID フィールドを持ちます

最初のフォーム変数は、CUSTOMERS データベーステーブルに接続し、マスター - 詳細接続 (データベースタブ) は無効にします。

2 番目のフォーム変数は、ORDERS データベーステーブルに接続 (データベースタブ) します。ORDERS データベーステーブルの親テーブルは CUSTOMERS テーブルです。CUSTOMERS と ORDERS テーブルを結合するために、ORDER_ID フィールドを接続します。このリンクによって、相互の ORDER_ID フィールドが一致するだけが取り出されます。

3 番目のフォーム変数も、同様の手順で ITEMS データベーステーブルに接続します。

以上の手順で、CUSTOMERS テーブルの ORDER_ID フィールド値 -> ORDER_ID フィールド値が一致する ORDERS テーブルの値 -> ORDER_ID フィールド値が一致する ITEMS テーブルの値のように、順に「数珠繋ぎ」で取り出されます。

このようなデータベースの編纂方法を正規化と言い、データベース管理では基本的で大切な理論です。

文字の作成

文字を作成するには、以下の手順を実行します:

1. ツールボックスの  アイコンをクリックします

ノート:
オブジェクトメニューの文字メニューコマンドを実行しても同じです。

2. フォーム上の文字を配置したい位置でマウスをクリックします
プロパティダイアログボックスが開きます
3. オブジェクトに与える文字を入力し、OK ボタンを押してください

ノート:
プロパティを変更するときは、オブジェクトをダブルクリックしてください。フォームへの配置を中止するには、ESC ボタンを押してください。

オブジェクトの位置あわせ

1. 位置あわせを行う全てのオブジェクトを選択します

ノート:

<Shift> キーを押しながらオブジェクトをクリックすると、1つ以上のオブジェクトを選択することができます。

2. 配置メニューの位置あわせメニューコマンドを選択します。
利用可能な複数の位置あわせオプションがあります

オブジェクトの移動とサイズ変更

オブジェクトを移動するには、移動先までオブジェクトをドラッグします。サイズをするには、オブジェクト周囲のハンドル(小さな矩形)を持ってドラッグします。

オブジェクトの選択

1つのオブジェクトを選択するには、マウスでクリックします。1つ以上のオブジェクトを選択するには、<Shift> キーを押したままマウスでクリックします。

1つ以上のオブジェクトを選択するもう一つの方法は、選択したいオブジェクトの周囲をマウスでドラッグして囲みます。オブジェクトは完全に囲まれる必要は無く、その一部が囲まれるだけでも選択することができます。

キーボードを使ってオブジェクトを選択するには

キーボードショートカットを使って、オブジェクトの選択とサイズ変更をおこなうことができます。使用可能なショートカットキーは以下の通りです。

カーソル移動キー	現在選択中のオブジェクトの周囲 (上下左右) にあるオブジェクトを選択
Ctrl + カーソル移動キー	現在選択中のオブジェクトを移動
Shift + カーソル移動キー	現在選択中のオブジェクトのサイズを変更

コンテンツプロバイダ

このソフトウェアでは、コンテンツプロバイダをデータの供給源を意味する用語として規約します。フォーム上の全てのオブジェクトは、いずれかのコンテンツプロバイダからデータを供給されます。

コンテンツプロバイダには、以下の種類があります：

固定	オブジェクトプロパティのエディットボックスやリストボックスに予め定数値を入力しておくオブジェクトです。値はデザイン時に決定され、実行中に変化することはありません。 編集には、Windows の標準的なショートカットキー (切り取り、複写、および貼り付け) を使用することができます。
変数	値を変数から取得するオブジェクトです。オブジェクトプロパティで、値を取得する変数を選択します。値は実行時に変更することができます。 フォームに変数が存在しないときは、ラベルからインポートするか、フォーム変数を作成しておかなければいけません。
データベース	値をデータベースフィールドから取得するオブジェクトです。オブジェクトプロパティで、値を取得するデータベース接続を選択します。

データベースウィザード

データベースウィザードは、簡単な対話操作でデータベース接続を作成します。[データベースアクセス関数](#) ダイアログボックスのウィザードボタンを押すか、データベースツールバーの  ウィザードボタンを押して起動します。

ウィザードが完了すると、選択した設定のデータベース接続が作成されます。作成されたデータベース接続をそのまま使うことも、修正して使うこともできます。

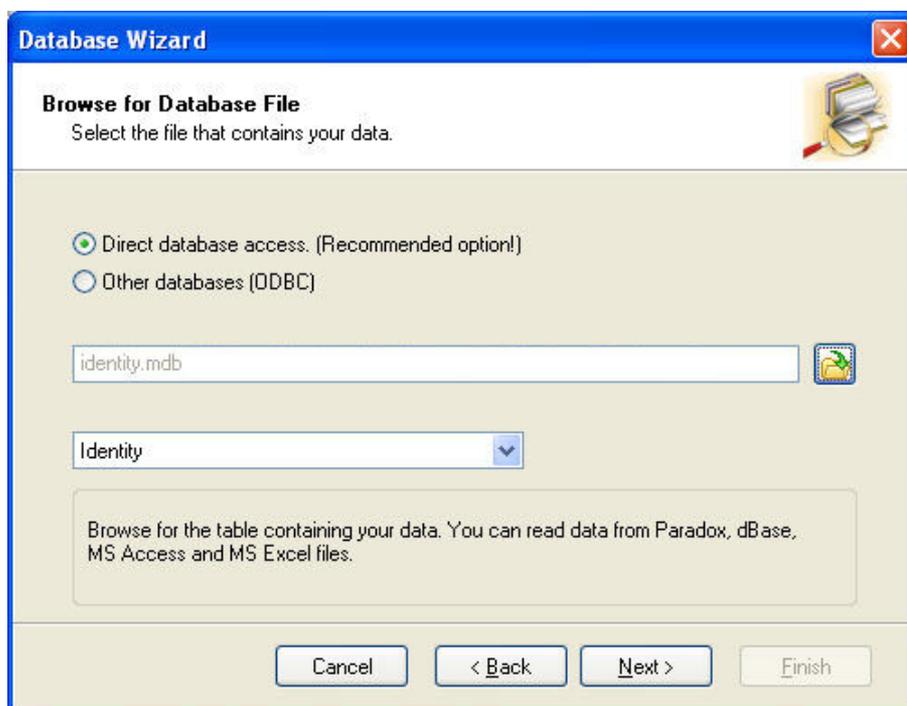
データベースウィザード: 開始



データベースウィザード: 開始

データベースウィザードの最初の画面は、設定すべきタスクの一覧を表示します。ウィザードが完了すると、データベース接続が作成されます。そして、フォーム上のオブジェクトにリンクすることができます。

データベースウィザード: データベースファイルの選択

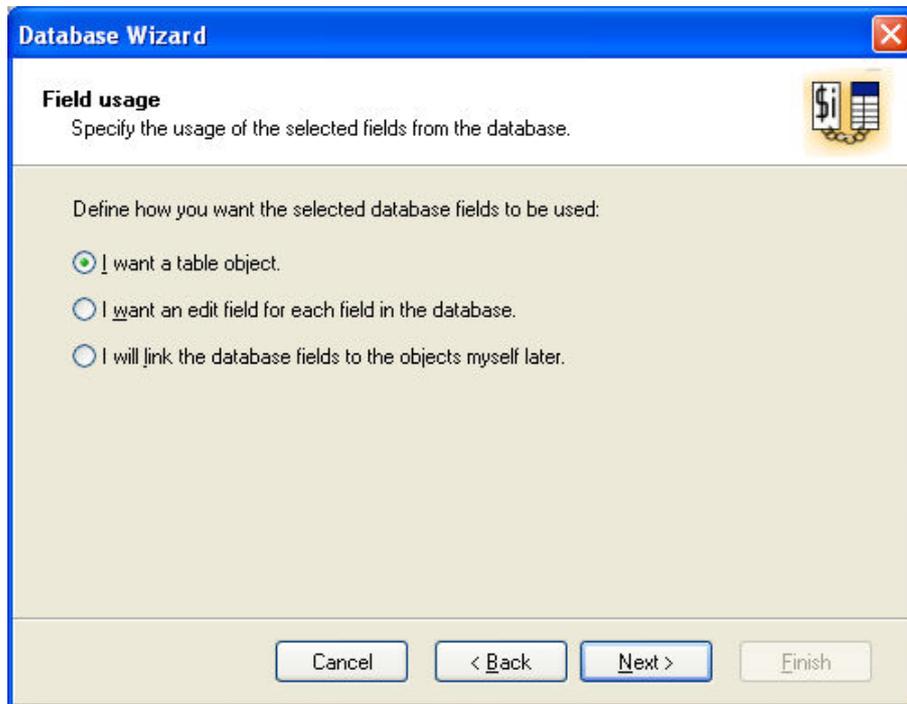


データベースウィザード: データベースファイルの選択

最初のステップでは、データベースファイルを選択します。ウィザードは Access、dBase、Paradox、および Excel ファイルを直接操作することができます。それ以外のデータソース (ODBC や本当のデータベースサーバーなど) を使いたいときは、ウィザードを使わずに手動で設定しなければいけません。

データベースファイルを選択したら、次へ ボタンを押して次のステップに進みます。

データベースウィザード: フィールドの割り当て



データベースウィザード: フィールドの割り当て

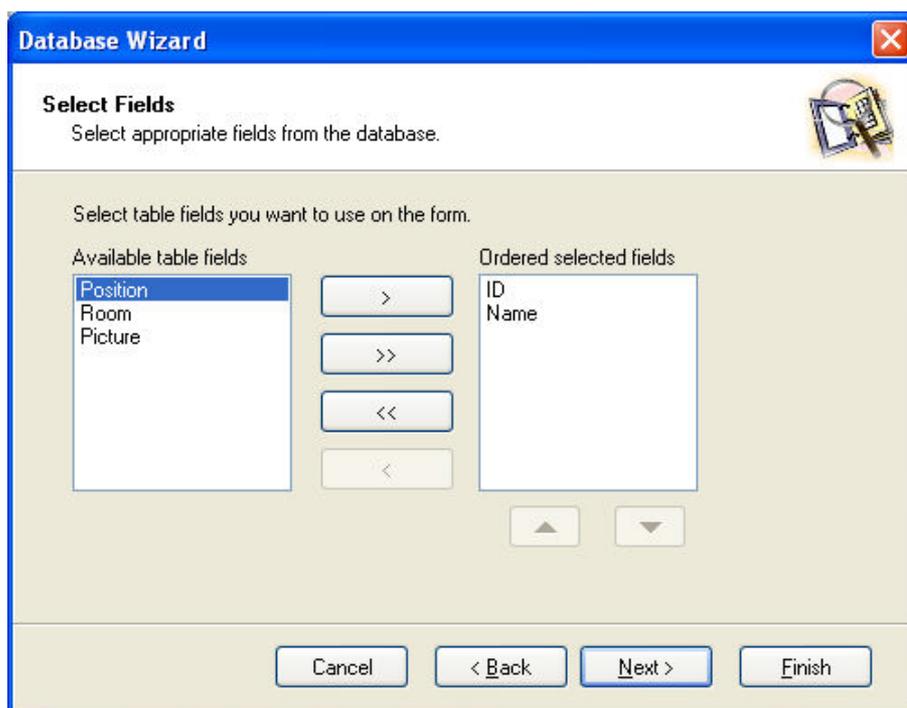
次のステップでは、フォームで使用するフィールドの割り当て方法を選択します。

データベース接続にテーブルオブジェクトを使用する: データベース接続にテーブルオブジェクトを使用します。

エディットフィールドにデータベースフィールドを割り当てる: エディットフィールドにデータベースフィールドを割り当てます。

データベースフィールドの割り当てを手動で行う: ウィザードはデータベース接続のみを作成します。データベースフィールドの割り当ては、手動で行わなければいけません。

データベースウィザード：フィールドの選択



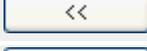
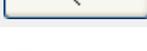
データベースウィザード：フィールドの選択

フォームで使用するデータベースフィールドを選択します。

利用可能なフィールド：データベースで利用可能なフィールドの一覧です。

選択したフィールド：フォームで使用するフィールドです。

矢印ボタンを押して、フィールドの使用と解除を行います。

	選択したフィールドをフォームで使用
	全てのフィールドをフォームで使用
	フィールドの使用を全て解除
	選択したフィールドの使用を解除

使用中のフィールド（右リスト）の順序は、上下ボタンで入れ替えることができます。フォーム上のデータベーステーブルでは、一番上のフィールドが一番左に表示されます。フィールドの順序を入れ替えると、表の表示順序を入れ替えることができます。

データベースウィザード: フィールドの接続



データベースウィザード: フィールドの接続

次のステップでは、データベースフィールドの接続を行います。

フォーム上でデータベースのデータを使用するには、データベースフィールドをどのフォーム変数に接続するかを指定しなければいけません。データベースフィールド名とフォーム変数名が一致しているときは、自動的にそれらを接続します。一致していないときは、手動でそれらを接続します。

フィールドを接続するには、以下の手順を実行します:

1. 左リストのデータベースフィールドと、右リストの変数をそれぞれ選択します
2. 追加 ボタンを押すと、選択したフィールドと変数を接続します。接続したフィールドと変数は、下のリストに移動します

削除: 選択した接続をリストから削除します。

全て削除: 全ての接続を削除します

次へ ボタンを押すと、ウィザードの次のステップに進みます。

データベースウィザード: オブジェクトの追加

フィールドの割り当てページで データベース接続にテーブルオブジェクトを使用する を選択した時は、フォームにデータベースナビゲータが配置されます。

エディットフィールドにデータベースフィールドを割り当てる を選択したときは、フィールドを配置する複数の追加オプションがあります。フォームにはデータベース検索が配置されます。

データベース検索	詳細は、データベース検索 を参照してください
データベースナビゲータ	詳細は、データベースナビゲータ を参照してください

データベースナビゲータ: ウィザードの完了



データベースナビゲータ: ウィザードの完了

必要な全ての情報を入力すると、データベースウィザードは完了します。設定を見直すときは、戻る ボタンを押してください。設定を完了するときは、完了 ボタンを押してください。

フィルターを使う

デザインモードでフィルターを追加すると、フィルターはフォームファイルに格納され、実行時には常に適用されます。ユーザーは、フィルターを削除することはできません。

実行モードでフィルターを追加すると、追加は一時的でフォームには格納されません。フォームを終了すると、フィルターは破棄されます。

変数の編集

内部変数は、フォーム上でのみ編集することができます。

ラベルファイル上で定義された変数は、どのような変更も行うことができません。変更を行うときは、ラベルファイル上で行わなければいけません。ラベルファイル上で行った変更は、次回フォームを開くときに反映されます。

内部変数

内部変数は、明示的に作成することなく暗黙に存在し、ソフトウェアによって管理される変数です。フォームやラベルでは参照のみが許され、値を変更することができません。値は印刷によって自動的に更新されます。

内部変数は、他の変数と区別するために  アイコンで表示されます。

利用可能な内部変数は、以下の通りです:

ComputerName	コンピュータ名です
Date	現在の日付です
DefaultPrinterName	既定のプリンター名です
FormName	開いているフォームファイル名です。パス名も含んでいます
LabelName	開いているラベルファイル名です。パス名も含んでいます
LabelPrinterName	接続中のプリンター名です
ShortFormName	開いているフォームファイル名です。ファイル拡張子 OFF は含みませんが、パスは含みません
ShortLabelName	開いているラベルファイル名です。ファイル拡張子 LBL は含みませんが、パスは含みません
SystemUserName	アプリケーションを実行中のユーザー名です。Windows のログオンユーザー名と同じです
Time	現在の時間です
UserName	アプリケーションを実行中のユーザー名です。アプリケーションのユーザー管理機能により得られるユーザー名で、必ずしも Windows のユーザー名とは一致しません

変数の型

変数は、その型によって異なるアイコンで表示されます。

変数の型とアイコンは以下の通りです：

	ラベルファイルのキーボード入力変数 アプリケーションは、これらの変数値をラベルファイルから読み取り、リストに表示します
	ラベルファイルのデータベース変数 アプリケーションは、これらの変数値をラベルファイルから読み取り、リストに表示します
	フォーム変数 フォームで定義したローカル変数で、ラベルファイルには存在しません。この変数は、フォームの動作で使用することができます
	フォーム内部変数 フォームの内部変数変数で、ラベルファイルには存在しません。この変数は、フォームの動作で使用することができます。参照のみが可能です

格納サーバーを使う

Enterprise エディションのユーザーは、格納サーバーを使うことができます。格納サーバーは、フォーム、ラベル、およびイメージを共有ストレージに記憶し、配信することができます。

ノート: 格納サーバーにはアクセス権制御があります。アクセス権の付与は、システム管理者によって行います。

複数のオブジェクトサイズを揃える

1. サイズを揃えたいオブジェクトを選択します

ノート:

<Shift> キーを押したままマウスをクリックすると、複数のオブジェクトを選択することができます。

2. 配置メニューの [サイズ](#) メニューコマンドを実行します

ラベルから変数をインポートする

1. **デザインメニューの変数の取得** メニューコマンドを実行します。
ラベルファイル選択ダイアログボックスが開きます
2. **変数をインポートしたいラベルファイルを選択**してください
3. **キーボード入力変数**は、同様にフォームで使用可能です。これらの**変数をオブジェクトに接続**することができます

ノート:

データベース変数もフォームで使用可能です。フォームで使用するには、ラベルのデータベース変数を使用するオプションをチェックしてください。

手動によるインポートを行いたくないときは、[新規フォームウィザード](#) を実行してください。

ノート:

内部変数名は予約語です。これらと同じ名前の変数 (Date、Time、および UserName など) は使用することができません。

オブジェクトを変数にリンクする

方法 1

1. 固定オブジェクトをフォームに配置します
2. オブジェクトをダブルクリックします。
プロパティダイアログボックスが開きます
3. 内容 タブを選択
4. 内容リストボックスから 変数値 を選択
5. 変数リストから、リンクしたい変数を選択します

ノート:

リンクしたい変数がリストに見つからないときは、新規 ボタンを押して新たに作成するか、ラベルファイルから変数をインポートします。その後、再度ステップ 1 から実行してください。

6. OK ボタンを押してください

方法 2

1. ツールボックス、オブジェクトアイコン横にある小さな矢印をクリックします。
コンテキストメニューが表示されます
2. 既存の変数を使用するメニューコマンドを実行してください
3. 変数リストから、リンクしたい変数を選択します

ノート:

リンクしたい変数がリストに見つからないときは、新規 ボタンを押して新たに作成するか、ラベルファイルから変数をインポートします。その後、再度ステップ 1 から実行してください。

4. フォーム上のオブジェクトを配置したい位置をマウスでクリックします

データベースからラベルファイル名を取得して印刷する

1. フォームを作成します
2. デザインメニューの変数の取得メニューコマンドを実行します
3. 印刷したい変数を選択します。
ラベルの変数は、フォームにインポートされます

ノート:

印刷する全てのラベルが、インポートした変数名と同じ名前の変数を持っていないと印刷できません。

4. データメニューの変数 オプションを選択します
5. 追加 ボタンを押して、Label という名前のフォーム変数を 1 つ追加します。このフォーム変数にラベルファイル名を格納します
6. データダイアログボックスで、データベースを選択してください
7. ウィザード ボタンを押して、データベースウィザードを起動します。ウィザードの指示に答えて、データベース接続を作成します。
ウィザードのテーブルオブジェクトを使用するオプションを有効にして、ウィザードを完了してください
8. テーブルオブジェクトをダブルクリックします。
プロパティダイアログボックスが開きます
9. カラム タブを選択してください
10. Label フォーム変数が、データベースのラベルファイル名 フィールドにリンクした状態にします
11. OK ボタンを押して、プロパティダイアログボックスを閉じます
12. ボタン オブジェクトをフォームに作成します
13. ボタンオブジェクトをダブルクリックします。
プロパティダイアログボックスが開きます
14. 動作 タブを選択します
15. 編集 ボタンを押します
16. 右側のリストにファイルを開く動作を追加します
17. 動作のプロパティを開き、変数ラベルファイル名を選択します
18. Label フォーム変数を選択してください
19. OK ボタンを押します
20. 動作の定義がリストに追加されます
21. OK ボタンを押して、フォームに戻ってください

データベースのレコードを選択すると、レコードのデータは Label フォーム変数に格納されます。続いて変数値のラベルファイル名が開きます。

複数の異なったラベルを印刷する

一度のクリックで複数の異なったラベルを印刷するには、以下の手順を実行します:

1. **デザインモード**でフォームを開いてください
2. 印刷動作を定義しているボタンをダブルクリックして、プロパティダイアログボックスを開きます
3. **動作 タブ**を選択します
4. **編集** ボタンを押して、動作エディタを開きます
5. **ラベルを開く動作**を追加して、印刷したいラベルを新たに開きます
6. 上で追加したラベルを開く動作の次に、**ラベルの印刷**動作を新たに追加します
7. **OK** ボタンを押して、動作エディタを閉じてください
8. **OK** ボタンを押して、フォームに戻ります

動作は、システムの許す限り追加することができます。最初の動作から順に印刷が実行されます。

フォームの素早い作成とテスト

1. ファイルメニューの **新規フォームウィザード** メニューコマンドを実行して、フォームの雛形を作成します。
作成されるフォームは、選択したラベルの変数入力項目と印刷、および終了ボタンを持っています
2. **デザインメニューの実行** メニューコマンドを実行して、実行モードにします

ノート:



ボタンを押しても、実行モードになります

3. 必要なデータを入力して、印刷 ボタンを押すと印刷が開始します

ノート: <Tab> ボタンを押すと、フォーカスのある項目を移動します。<Enter> キーを押すと、フォーカスのある項目の既定の動作 (例えばボタンのクリック) を実行します。

オブジェクトのフォーカスを変更する

実行中のフォームは、フォーカスを持つオブジェクトがあります。フォーカスを持つオブジェクトは、マウスやキーボードの操作を受け付けるオブジェクトです。例えば、エディットボックスはキーボードの入力を受け取ります。リストボックスやコンボボックスへの Enter キー入力は、既定の文字列を選択する意味となります。ボタンに対する Enter キーの入力は、マウスクリックと同じ意味になります。

全てのオブジェクトは、タブオーダーを持っています。タブオーダーは、Tab キーの入力でフォーカスが変更される順序です。タブキーを押すたびに、最初のタブオーダーを持つオブジェクトから順に選択状態が移り、最後のオブジェクトの次は、また最初のオブジェクトに戻ります。

オブジェクトのフォーカスを変更するには、以下の手順を実行します：

設計時にタブオーダーを指定する

1. **デザイン** -> **タブオーダー** メニューコマンドを実行します
2. 上下キーで**タブオーダー**を変更します。リストの一番上にある**オブジェクト**が、最初の**タブオーダー**を持ちます。
この設定は、**フォームファイル**に記録されます

ノート: タブオーダーを変更する前の既定値は、**オブジェクト**を**フォーム**に配置した順番です。

3. **フォーム**を実行して Tab キーを押すと、**リスト**の順序に従って**タブオーダー**が移ります

"オブジェクトのフォーカスを移動" 動作を使用する

1. ボタンオブジェクトのプロパティダイアログボックスを開きます
2. **動作** **タブ**を選択してください
3. **編集** ボタンを押します
4. **オブジェクトのフォーカスを移動** 動作を設定してください

ノート: オブジェクトのフォーカスを移動 動作が見つからないときは、**拡張** ボタンを押して全ての動作を表示してください。

5. 動作には、以下の2つのオプションがあります：
 - **最初のタブオーダー**にフォーカスを移動
 - **選択オブジェクト**にフォーカスを移動

ノート: オブジェクトにフォーカスを移動 動作 (**ファイル** -> **フォームのプロパティ** -> **イベント**) でもフォーカスを移動できます。

実行モードで画面の位置を変更する

作成したフォームは、既定値では最大サイズで実行します。任意の位置とサイズ、または画面の中央に表示することができます。

実行モードで画面の位置を変更するには、以下の手順を実行します：

1. ファイル-> フォームのプロパティメニューコマンドを実行します
2. 外観 タブを選択
3. 通常 オプションを選択。
フォームの位置とサイズを設定できるようになります
4. 位置とサイズを入力してください

タブオーダーを変更する

1. デザイン -> タブオーダーメニューコマンドを実行します
2. オブジェクトを選択し、上下ボタンでタブオーダーを変更してください

ノート: キーボードショートカットの Alt + Up と Alt + Down キーでもタブオーダーを変更できます。

3. OK ボタンを押してください
4. デザインメニューの 実行 メニューコマンドで、実行モードに切り替えます
5. <Tab> キーを押して、意図したとおりにになっているかテストしてください

データベースデータを使う

1. データメニューのデータベースアクセスメニューコマンドを実行します
2. ウィザードボタンを押して、ウィザードを起動します。表示の指示に従ってデータベース接続を作成してください。
データベース接続がフォームに作成されます
データベースフィールドは、指定したオブジェクトにリンクします

データベース接続の作成が完了すると、データベースフィールドは任意のオブジェクトに結びつけることができます。

SQL 文に変数を渡すことができます。SQL 文に変数を渡すには、セミコロンで修飾します (`:param_name`)。SQL 文に渡す変数は、必ず既定値を持たなければいけません。SQL 文を定義した後に、変数の既定値を変更することはできません。

分散印刷を行う

アプリケーションは、複数の印刷方法をサポートしています。通常の印刷方法は、ローカル接続、またはネットワーク直接接続 (Windows 通常の印刷方法) です。

分散印刷は、印刷手順を記述した JOB ファイルを他のコンピューターに配信して行います。このモードでは配信元のコンピューターのラベルアプリケーションは使用しません。

.JOB ファイルは、ネットワークの共有フォルダに書き込むか (ミドルウェア製品のライセンスがある場合)、TCP/IP プロトコルで直接他のコンピューターに配信することができます。

モバイルデバイス用のフォームをデザインする

NiceLabel PowerForms Desktop エディションは、Windows モバイルデバイス向けの印刷アプリケーションライセンスを含んでいます。ラベルとフォームをデスクトップコンピューターでデザインし、モバイルデバイスに送信することができます。

日本のユーザの皆さん:

日本の全てのハードウェアメーカーは、既に一般向け Windows モバイルデバイスの製造を打ち切っています。Microsoft 社も H/PC 向けアップデートを放棄しており、事実上携帯電話などの組み込み向けに活路を見出しています。一部の海外メーカー機器が輸入販売されていますが、これらは十分なテストができません。アプリケーションのテスト環境、および最新の情報については、製品の Web ページを参照してください。

モバイルデバイス向けアプリケーションを使えば、Windows モバイルデバイスにバーコードプリンターの印刷能力を与えることができますが、OS の制限もあって使用可能な機能はかなり限られます (そもそもプリンターに接続ことすら容易ではありません)。

一方、例えば JOB ファイルを使って、ワークステーション上のラベルアプリケーションに印刷命令を出すことは簡単です。この場合に必要なのは、単純なストリームの読み書きとソケット API の知識だけです。モバイルデバイス向けのシステムを設計するときは、これらの点も十分考慮してください！

モバイルデバイス向けのフォームを作成するには、以下の手順を実行します:

1. 新規フォーム作成ウィザードを使用してフォームを作成するときは、Windows モバイルアプリケーション オプションを選択し、デバイスリストから使用するデバイスを選択します
2. 手動でフォームを作成するときは、ファイル -> フォームのプロパティ -> Window タブから、使用するデバイスを選択します。プラットフォームリストの 'Windows' はデスクトップ Windows アプリケーションで、それ以外は全て Windows モバイルアプリケーションです

フォームをデザインしたら、フォームと必要なファイル (ラベル、イメージ、およびデータベース) をモバイルデバイスに転送します。以下の手順を実行してください:

1. 以下の点を再度確認します:
 - 適切な Windows モバイルデバイスを選択したか
 - フォームファイルをディスクに保存したか
 - ActiveSync (Microsoft 製の同期ツール) は、コンピューターに正しくインストールされているか
 - モバイルデバイスは、正しくコンピューターと同期できているか
 - ラベルファイルは、モバイルデバイス向けの制限 (TrueType、Visual Basic スクリプト、関数の不使用など) を守ってデザインしたか

ノート: ラベルソフトウェアの全ての機能が使用できるわけではありません。デザインを検証するには、ファイル -> エクスポート -> Pocket PC へエクスポート メニューコマンドを実行し、表示されるメッセージを確認してください。

2. **ファイル**-> Pocket PC へ保存 メニューコマンドを実行します
3. **ウィザード画面**の指示に従って操作してください

コマンドラインオプション

フォームを実行するときに、アプリケーションに追加のコマンドラインオプションを渡すことができます。

フォームファイルは、2つのアプリケーション (.EXE ファイル) で解釈することができます。一つはデザイナー (デザインアプリケーションの実行モード) で、もう一つはランタイムモジュール (実行専用アプリケーション) です。

<Program_Name>.EXE [file_name] [options]

デザイナーで実行するとき:

デザイナーのプログラム名は、C:\Program Files\EuroPlus\NiceLabel 6\bin\nform6.exe です。

[file_name] : フォームファイルへの絶対パスです。

[parameter] : 追加パラメーターです。以下のパラメータが使用可能です。

/off2xff	<p>このオプションを付けてデザイナーを起動すると、古いバージョンのファイル (.OFF) から、XML 形式の新しいファイル (.XFF) に変換します。I</p> <p>単一ファイルの変換:</p> <p>"<ファイル名>.off /off2xff" 形式で起動すると、<ファイル名>.off ファイルを <ファイル名>.xff に変換します。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"><p>ノート: 同名のファイルは、確認なしに上書きします。</p></div> <p>複数ファイルの変換:</p> <p>"<フォルダー名> /off2xff" 形式で起動すると、<フォルダー名> 以下の全ての .off ファイルを .xff ファイルに変換します。</p>
----------	--

ランタイムモジュールで実行するとき:

ランタイムモジュールのプログラム名は、C:\Program Files\EuroPlus\NiceLabel 6\bin\nform6rt.exe です。

[file_name] : フォームへの絶対パスです。ランタイムモジュールで起動すると、どのようなデザイン画面も表示されません。ユーザーには通常の Windows アプリケーションのように見えます。

[parameter] : ランタイムモジュールには、使用可能な追加パラメータはありません。

オンラインサポート

このマニュアルおよびドキュメントの内容は、複数の製品で共通となっています。内容については、お使いの製品に合わせて読み替えてください。国および地域によって、取り扱い製品、名称、機能、バージョン、およびサポート体制には違いがあります。最新の情報は、製品の Web ページ、または製品カタログを参照してください。取り扱いの無い製品のユーザーサポートはお受けできません。

もし問題を解決できない場合は、先ずお求めになった地域の販売店ご連絡下さい。それでも問題を解決できないときは、[お問い合わせ](#) リストからご連絡下さい。

全ての製品に関する共通の情報サイトは、www.nicelabel.com です。プログラムの最新バージョン、アップデート、問題に対する対処、およびよくある質問 (FAQ) は、このサイトをご覧ください。

より詳しい情報は、以下を参照してください:

- サポート FAQ: www.nicelabel.com/Support/FAQ
- NiceLabel Support: <http://www.nicelabel.com/support>
- NiceLabel 入門: www.nicelabel.com/Learning-center/Tutorials
- NiceLabel フォーラム: forums.nicelabel.com